

受付番号	2024-1		
許可番号	大歯医倫 第 111323 号		
研究課題名	当科における WHO 歯原性腫瘍新分類（2022）の臨床学的検討		
研究責任者	辻 要	申請者	野元 大輔
研究終了日	2027 年 3 月 31 日		
所 属	口腔外科学第一講座	所 属	歯学研究科（口腔外科学専攻）
職 名	講師	職 名	大学院 2 年生

申請の概要

歯原性腫瘍とは、歯の発生に関する組織に由来する顎顔面口腔領域に特有の腫瘍である。発生年齢が低いため永久歯の萌出不全による歯列不正の原因になる事が多い。また、再発率が高いものもあるため顎骨切除や離断を行うこともあり、それによる顔貌の変化や発音・咀嚼障害などの QOL の低下につながることもしばしば認める。

歯原性腫瘍の分類は、1971 年に WHO が初めて発表してから、1992 年、2005 年、2017 年にその臨床病態や病理組織学的所見などをもとに改訂されており、今回 2022 年に新分類が発表された。歯原性腫瘍の分類に関する報告は若年者を中心とした患者の歯原性腫瘍の早期発見や適切な治療法などによる QOL の低下防止につながる重要な情報と考えられる。しかしながら、新分類の発表から約 2 年が経過した現在でも新分類に関する報告は散見されるのみである。

今回、1994 年 4 月から 2024 年 2 月までの 30 年間に病理組織学および画像診断にて歯原性腫瘍と診断された症例を対象として、それらを 2022 年 WHO 歯原性腫瘍新分類に基づいて再度分類を行い、頻度、性別、年齢、発現部位、主訴、治療法等に関して分析する。本研究で当科における歯原性腫瘍の臨床データを分析し、早期発見につながる情報や治療法に関して有用な情報を学会発表や論文発表を行うことにより、歯原性腫瘍の診断および治療の一助となることが期待される。